

大津市教育振興基本計画策定懇話会

1 目的

本市教育振興基本計画の策定に関し、学識経験者、関係団体等から広く意見を聴し、計画策定の参考とする目的で開催する。

2 構成員

	団体名	氏名	役職	備考
学識経験者	兵庫教育大学 教授 滋賀大学教職大学院 客員教授	大野 裕己	兵庫教育大学 教授 滋賀大学教職大学院 客員教授	座長
市民団体代表	大津市自治連合会	岸場 馨	大津市自治連合会 会計	
	大津市PTA連合会	大貫 大輔	大津市PTA連合会 副会長	
	大津市PTA連合会	小森 美恵子	大津市PTA連合会 事務局員	
	大津市社会教育委員会議	只友 景士	龍谷大学 政策学部 教授	

大津市教育振興基本計画策定懇話会

4 第一回懇話会 実施結果

(1)日時 令和6年7月11日(木) 10:00～11:30

(2)場所 新館2階 災害対策本部室

(3)議題 第4期大津市教育振興基本計画／大津市教育大綱の素案について

(4)主な意見

- ・ 大野委員:方針3の重点内容の見直し(学校現場の負担軽減を踏まえると①②に重点を置くべきでは?)。
- ・ 大野委員:(学びは個人レベルで完結するものではなく、得られた知識の地域還元や地域や社会との繋がりを目指す、という説明に対し)学びの主体に対するアプローチの仕方を検討してほしい。
- ・ 大野委員:公表時にはこどもや保護者の意見を含んだ計画であることを丁寧に伝えてほしい。
- ・ 小森委員:教職員や子どもたち、市民への計画内容の浸透をお願いしたいが、その過程が教員にとって負担とならないような工夫をしてほしい。子どもにとっても教員にとっても良い形で実施してほしい。
- ・ 小森委員:教員の働く環境の見直しにつながるような計画にしてほしい。
- ・ 小森委員:第3期計画から第4期計画への変化のポイントと、その期間にこういった変化があり、どんな背景がその変化に繋がったのかを明示してほしい。
- ・ 大貫委員:市民に分かりやすいレイアウト、表記の仕方を心がけてほしい。
- ・ 岸場委員:外部環境が変化している中で、学び支えあう環境づくりの充実が大切である。

第4期大津市教育振興基本計画策定プロジェクト会議

1 目的

本市教育振興基本計画の策定に関し、関係部局から広く意見を聴し、計画策定の参考とする目的で開催する。

2 構成員

方針1 ひとり一人の可能性を引き出し、心豊かに生きる力を育む

所属	役職
学校教育課	副参事
学校ICT支援室	指導主事
教育支援センター	指導主事
学校給食課	主査
文化振興課	課長補佐
幼保支援課	副参事
晴嵐小学校	教諭
皇子山中学校	教諭

方針2 すべての子どもが安心して学べる教育を推進する

所属	役職
児童生徒支援課	指導主事
教職員室	室次長
教育センター	指導主事
教育支援センター	指導主事
子ども・子育て安心課	主事
堅田小学校	主幹教諭
志賀中学校	教諭

方針3 とともに学び支え合う社会の実現をめざす

所属	役職
人権・男女共同参画課	主査
歴史博物館	主査
子ども・若者政策課	政策係長
生涯学習課	主幹
中央小学校	教諭
唐崎中学校	教諭

3 開催日時

第一回会議 日時 令和6年7月 5日(金) 15:00～16:30

第二回会議 日時 令和6年7月31日(水) 9:30～11:00

第4期大津市教育振興基本計画策定プロジェクト会議

4 主な意見

○方針1 一人ひとりの可能性を引き出し、心豊かに生きる力を育む

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、体験的な学びの機会が減ってしまった。
- ・ (アンケートの結果を見て)「困ったことや悩み事があったとき、相談できる人や居場所がある学校」の回答数と「授業以外でも話を聞いてくれる先生がいる学校」の回答数に開きがあるのが印象的。例えば担任の先生には相談しにくいなど、個々に抱えている状況が異なる。みんなが気軽に相談できる場所や窓口があることが一番望ましい。
- ・ 現場の教員は20代から30代が多く、教員のスキルアップや役割分担など、チーム学校として支える必要がある。
- ・ 地域や施設による差はあるが、幼稚園・保育施設と小学校との連携について、十分にできていないと感じられる。

○方針2 すべての子どもが安心して学べる教育を推進する

- ・ 子どもは、悩みがあったら教員への相談、オンラインより対面を求めており、相談体制の充実が重要(子若アンケ)。
- ・ 担任個人のみではなく組織的なアセスメントの推進が必要。
- ・ 教科指導に関するOJTの充実が必要。
- ・ トイレ等の教育環境の充実は重要(入学前に和式トイレを練習するとの保護者の声あり)。
- ・ 十分な児童生徒理解と組織体制で新年度を迎えるために、年度当初一定期間の研修パッケージ等が必要。
- ・ 未然防止につながる日常の教育活動のさらなる充実によっていじめを減らす必要がある。
- ・ 切れ目のない支援とするために、学校と学校以外による支援の両方につなげておく必要がある(卒園・卒業後、入学前等)。

第4期大津市教育振興基本計画策定プロジェクト会議

○方針3 とともに学び支え合う社会の実現をめざす

- 「家庭・地域・学校の協働の充実」「大津の歴史と文化、伝統を継承する学習機会の充実」にあたっては、現状、ステークホルダー間での考え方にギャップが生じており、それぞれの活動内容や思いについて見える化が必要。
- 社会教育にあたり、地域の役割が非常に大きいが、地域の力が落ちてきていると感じている。
- アンケート結果において、設問3において、「問題について自分で考えたり、調べる」が比較的低い結果になったのは、ICTの発達等により子どもが入手できるコンテンツが充実しすぎていることが理由として想定される。
だからこそ大人は子どもに与えすぎるのではなく、例えば、イベントでは、大人と子どもと一緒に準備するようなことも必要ではないか。
- 子どもとのギャップをなくすために、大人も子どものことを学ぶべきではないか。
- 大人と子どもの協働を促進するためには、地域での場づくりが重要。その担い手になるのは、例えば、まちづくり協議会が想定される。

大津市教育振興基本計画策定に関する児童生徒向けアンケート 集計結果

(1)概要・目的

第4期大津市教育振興基本計画及び教育大綱の策定にあたり、「みんなが楽しく通える学校ってどんな学校だろう」をテーマとして、令和6年2月に市内の小学校および中学校から代表者を募り、意見交流しながら自らの学びや学校生活について自発的に考えを発表することを目的として開催した子どもの意見交流会での意見に加え、より多くの児童生徒から意見を聴取することを目的として、「より良い学校生活にするために あなたの“声”をきかせてください」と題し、実施したもの。

(2)対象 市立小学校37校の5～6学年児童及び市立中学校18校の1～2学年生徒

(3)方法 児童生徒のタブレットを用いたアンケートツール「Microsoft forms」にて回答

(4)実施期間 令和6年6月10日(月曜)～17日(月曜)

(5)回答数 小学校／4,716 件 中学校／5,129 件 計9,845 件 回答率83.2%
集計結果は別紙のとおり

(質問)

1. 学校名をえらんでください。
2. 学年をえらんでください。
3. あなたが学校や学校以外の時間で「充実している」や「笑顔になれる」と感じる時はどんな時ですか。当てはまるものすべてをえらんでください。
4. あなたが思う「充実している」や「笑顔になれる」と感じられる学校とはどのような学校ですか。あてはまると思うものをえらんでください(最大5つまで)。
5. えらんだもののうち、とくに大切だと思うものはどれですか。
6. (5.について)えらんだ理由を教えてください(自由記述)
7. より良い学校にするために、「こんなことができたらいいな」や「こんなことやってみたい」などアイデアや意見があれば自由に書いてください。